



吉川市立東中学校 学校だより

あいさい

<https://www.yoshikawa.ed.jp/higashi-jh>

令和7年7月号

全校生徒数 289名
〒342-0017

住所：吉川市上笹塚 3-104-1
TEL：048-982-0244



毎日コツコツと粘り強く

校長 伊東 猛

もうすぐ7月。7月に入ると残りの登校日は14日となります。6月には学校総合体育大会地区予選会や生徒総会、期末テストなどの大きな行事もあり、それぞれに向けて一人一人が目標をもって取り組んでいました。学校総合体育大会の地区予選では会場についた私への気持ちの良い挨拶や試合の状況の報告など、真心のこもった対応をととてもうれしく感じました。

県大会に出場する皆さん、ベストを尽くせるよう最大限の準備をして有終の美を飾ってください。また、引退した運動部の3年生は次の進路決定に向けて気持ちを切り替え、バトンを受け継いだ1・2年生は先輩方を超えるべく質の高い練習に励んでください。

さて、今回の学校だよりでは、それぞれの立場で新たなスタートを切った皆さんに、江戸時代の学者・新井白石のエピソードの「一粒の米」という話を紹介します。新井白石は幕府の政治の中心となって活躍した人ですが、子どもの頃の新井白石は朝から晩まで遊びに夢中で、あまり勉強をしませんでした。そんな姿を見て父親は、こんな話をして諭しました。

それからは、1粒の米をいつも机の上にお守りとして置き、怠けようという心が起きた時、その米

米びつ（お米を入れる箱）から1粒のお米を取ってもお米が減ったかどうか分からない。けれど、毎日1粒ずつのお米を1年間、2年間取り続けると、減ったことがわかる。反対に米びつに1粒ずつお米を加えても、お米が増えたかどうか分からない。だけど、毎日1粒ずつのお米を1年間、2年間加えていくと、増えたことがわかる。

学問も同じだ。1日だけ勉強したり練習しても、すぐに利口になったり上手になるわけではない。1日怠けたからといって、翌日にすぐ勉強ができなくなったり、下手になったりするわけではない。けれども毎日、毎日、ほんの少しずつでも努力を続けると、1年、2年後には利口になり、上手になったことがわかる。毎日少しだけでも怠けていると、気がついたときには勉強もわからなくなっている。

粒を見て自分自身を励まし、がんばったそうです。そして、大人になると徳川の第6代・7代将軍のもとで、中心となって日本の政治を動かす人になりました。

私たちの日常では、何日ぐらい怠けると「あっ！」と気付くでしょうか。人によって3日の人もいれば、ひと月の人もいるでしょうが、例えば、スポーツや音楽の世界で、いいプレー、いい演奏をする方は、一日でも休むと、どうしても腕が落ちると異口同音に言います。

「**継続は力なり**」ということわざにもあるように、毎日の学習、生活習慣、習い事など、どれをとってみても毎日の積み重ねが大切です。「一瞬一瞬の積み重ねを大切にしながら、着実に自らを成長させる力をつける」ことの大切さを今後も伝えていきたいと思います。